

学 友 会 セ ミ ナ ー

日時；2013 年 10 月 18 日（金）16:30～17:30

場所；村山庁舎 第一会議室

インフルエンザウイルスのゲノムパッケージング機構

東京大学医科学研究所

ウイルス感染分野

野田岳志

インフルエンザウイルスのゲノム RNA は 8 本の分節に分かれている。各 RNA 分節にはウイルスが増殖するために必須のタンパク質がコードされているため、感染細胞から出芽する子孫ウイルス粒子が感染性を獲得するためには、8 種類すべての RNA 分節をウイルス粒子内に取り込む必要がある。

ゲノム RNA の分節化が明らかにされた 1960 年代以降、ゲノムパッケージング機構の研究がなされるようになったが、何本のゲノム RNA 分節がどのように子孫ウイルス粒子内に取り込まれるかは、半世紀以上も明らかにされていなかった。しかし、近年のリバースジェネティクス法の開発や電子顕微鏡法の進展により、8 種類 8 本の RNA 分節が個々のウイルス粒子内に選択的に取り込まれることが明らかにされつつある。本セミナーでは、我々が明らかにしてきたインフルエンザウイルスのゲノムパッケージング機構について議論する。

世話人；インフルエンザウイルス研究センター 相内（内線 3708）